
鏡合わせのオレとオレ

RAB

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鏡合わせのオレとオレ

【Nコード】

N6341Z

【作者名】

RAB

【あらすじ】

進藤 ヒカルはタイトルを3つも手に入れるほどにまで上り詰めていた。

しかし、今だに佐為との別れは心の傷となり残っている……
そんなヒカルは24歳の5月5日に事故にあい……？

また、別の世界の進藤 ヒカルも事故にあった。

この二つの世界で同時に起きた事故は、世界にどのような変革をも

たらすのだろうか？

この作品は、他作品を書く間の気分転換で書く小説です。そのため、更新はスローペースになると思いますが、ご了承ください。

0 プロローグ(前書き)

死ネタはあまり書きたくなかったのですが、展開上そのような展開になりました……

不快に思われる方は、お引き取り下さい。

0 プロローグ

ザアザアザアと雨が降る。

まるで今のオレの心境を表している曇天から流れる、大粒の涙のようだ。

今日は5月5日。

それは、オレにとっては凄く重大な日だ。

そう、もう何年も昔から……

この日は、オレの大事な人がいなくなった日。

毎年この日になると、オレは凄く憂鬱になるんだ。

ああすれば良かった、こうすれば良かった。

そんなことばかりが、頭に浮かんできて……

一人でこの日を過ごすと、鬱病にかかってしまいそうになる。

オレは、気分転換になるかな？

と思い、雨の中散歩に出かけた。

でも、頭の中はずっと、あいつのことだけ……

会いたい会いたい会いたい会いたい……………

会って色々話したい！

ごめんって謝りたい！

ああ、でも本当は、分かってるんだ。

どれだけ渴望しても、あいつと会えないってことを……………

でも、この日だけは……………この日だけは……………

あいつのことを考えさせてくれよ……………

オレはふと、雨に打たれたくなくて、せっかく持ってきた傘をさすのを辞める。

まだ春で、少し冷たい雨がオレをずぶ濡れに濡らしていく。

上を見上げると、灰色の空が広がっていた。

ああ、早く晴れば良いのにな……………

そしたら、オレの心も少しは明るくなれるかもしんねえのに。

気分転換のための散歩だったが、何処を見ても、あいつと過ごした日々が思い出される……………

懐かしい、懐かしいあの日々。

頬をつたう少し温かい雫は、雨なのだろうか？

それとも、オレの涙か？

オレは、雨の中なのだから意味のない行動だと分かっているながらも、その雫を右手で拭う。

その時にチラリと視界に入った、右手の磨り減った爪……………

それはまぎれもなく、碁打ちの爪だった。

そう、オレは頑張らないと……………

あいつの弟子として、あいつの碁を引き継ぐ者として……………

あいつが愛してやまない碁を。

あいつから教えてもらった碁を。

今ではその碁でしか、あいつとは会えないのだから……………

でも、本当は……………

「お前と直に会って、話したいんだよ、佐為……………」

キキキキッ——

ドオーンッ

衝撃が身体中に走り、視界が暗転する。

真っ暗な、真っ暗な世界へと意識が引きずられていく。

何もなく、凄く寂しい空間だ。

その空間に、少し居ると、何か音……………いや、声が聞こえてきた。

「ヒカル！ヒカル！！目を覚ましてよ！！せつかくタイトルを3つも手に入れたんでしょ！こんな……………こんなところで、死なないですよ！」

あかり……………？

死ぬってオレが？

あ……………さっきの衝撃は事故だったのか？

「進藤！！キミはこんなところで立ち止まるべきじゃない！！ボクと……………ボクと神の一手を目指すのだから！！！」

塔矢……………

そうだよな。

神の一手を指さねえと。

あいつに顔向けできねえじゃなえか。

…………でも、このままオレが死んだら？

そしたらあいつに会える？

あー…………だめだめ。

こんな形であつたら、あいつがわんわん泣き出しそう…………

『ヒカル〜なんでこんなに早くこっちに来ちゃったんですかあー』

つてな。

「神様…………神様！どうか、どうか、息子を…………ヒカルを連れて行かないで下さい！…この子には、やらなくてはならない事が沢山あるんです！…！」

母さん…………

そうだよな。

オレは、死ぬわけにはいかねえ！！

あいつから受け継いだ暮を、こんなところで辞めたりなんかしねえ！！

だが、そんなオレの決意とは裏腹に聞こえていた声が遠くなっ
てい
く……………

「……ヒカル（進藤）！！……ヒカル（進藤）！！……ヒカル（進藤）……
ヒカ……しん……………」

ごめん……………ごめん、皆……………

オレ、もうダメみたい……………

ピ—————

進藤 ヒカル 享年24歳

死因 飲酒運転による交通事故

~~~~~  
雨の中、傘をさしている少年と少女がいた。

少年の方は雨だというのに、傘を片手に走って行くところ。

少女は、それを咎めているようだ。

「ヒーカールー！…こんな雨の中で走ってたら滑って転んじゃうよ！」

「へへん！お前じゃあるめえし、そんなへましねーよ！！」

少年は少女の忠告を聞かず、それどころか少女のことを蔑していた。

「なんですって！？……々もつ、本当に知らないよ！滑って転んで、明日からサッカーができなくなっても！！」

「お前に心配なんかされなくても大丈夫だっつーの！オレは、サッカー界のヒーローになる男なんだからな！！」

少年は、手に持っていた傘をグルングルン回しながら少女に語る。

そんな使い方をしているので、雨に濡れてしまい、傘の意味がなくなっている……

「あつそーですか！そんなことは、まずレギュラーになってから言  
つて下さい！！！」

「へーんだ！オレは次期レギュラー決定なんだよ！！だから……  
つて危ねえ！！！」

少年が少女の方を向くため、後ろを向いた瞬間、少年は少女に向か  
つて叫んだ。

それと同時に、少年は少女を突き飛ばした。

「えっ……ヒカル！？」

ドガーーーーンッ

少女がその大きな音の音源の方を見ると、そこには、ガードレール  
に突っ込んでペシャンコになっているトラックと、頭から血を流し、  
倒れている少年の姿があった。

「ヒッ…ヒカル！？……いやあああーーーー！！！」

少女は少年に駆け寄り、泣き崩れる。

「おっおい、事故だ！！誰か、救急車を呼べ！！！」

ピーポーピーポー……………

少年は、病院へと搬送されていった。

2つの世界………

同じ魂を持つ者同士の、同じ日の事故………

これは、世界にどのような変革をもたらすのだろうか？



## 0 プロローグ（後書き）

ヒカルは好きなキャラなので死なせたくなかったのに、こんな作品を書く自分……

でも、逆行物は好きです。

1 夢だなんて、認めない(前書き)

亀遅更新ですね……

すみません……

もうちょい早く頑張りたいです!!



## 1 夢だなんて、認めない

暗い暗い闇の中をオレは漂っている。

何処を見ても暗闇ばかりで、何も無い世界が無限に広がっているかのように思われる。

オレは、不安な気持ちが込み上げてきてついつい大声で叫んでしま  
う。

「おい！誰かいないのか！？……ここは何処なんだよ！？」

だが、オレの聲がこだまするだけで、何処からも返事は返ってこな  
かった。

オレはもう一度叫ぼうと、息を大きく吸い口を開く。  
すると……

「ここはな、オレの心の世界だぜ。」

何処からともなく声が聞こえてきた。

音源を探そうと努力してみるが、いたるところから聞こえてくるよ  
うに錯覚させられているのか、全く音源をつかむことができない。

「“オレの心の世界”って何だよ！？」

「オレの心の世界はな、お前の心の世界でもあるんだぜ。」

声の主は、楽しそうに、謎掛けをするかのように言う。

それが、オレにとっては腹立たしくてたまらない。

「さつきから、意味わかんねえ事ばかり言ってるじゃねーよ!!」  
「さつさと正体を現せ!!」

「ええー、やだよ!こんぐらいの仕返しぐれえさせてよ!」

……………仕返し?

オレは、こいつに何かしたのか?

オレは少し不安になり、今までのことを振り返る。

そして、この声は凄く聞き覚えがあることに気がついた。

「ちょっと待て!オレとお前は知り合いなのか!?!」

「うーん…………どーだろーなあ?知り合いかと言われればちげーし…………  
かと言って、他人かと言われればちげーし。ん……………オレはお  
前に一番近い奴だぜ!!」

一番近い奴と言われたら、オレには佐為しか思いつかない。  
しかし、この声は明らかにあいつの声じゃない。

なら、いったい誰なんだ?

オレがそれをもう一度問おうとするとこの声の主は話始めた。

「あー…………もうタイムアップか……………それじゃ、母さんやあかり  
達によろしく!!」

母さん?

あかり?

何故こいつが知っているんだ？  
なんでこいつが“よろしく”なんて言う？

それらのことを聞こうと声を出そうとするが、声は何故か全く出ない。

そして、今度はまた別の声が聞こえてきたことに気がついた。

「……………ル！？…カル！？……………ヒカル！！」

ぱっとオレは起き上がる。

辺りを見渡すと白を基調とした部屋の中、母さんがすぐ側で心配そうな顔をしながらオレを見ていた。

どうやら此処は病院の一室であるようだ。

「……………母さん？」

「ああ！！良かったわ、無事に目覚めて！！怪我自体は軽いものだったのに、頭を強打したせいか目覚めなくて本当に心配したのよ！もう目を覚まさないんじゃないかって……………本当に目覚めて良かったわ……………」

母さんが涙を浮かべながらオレを抱きしめる。

しかし、オレには何故そんな事になったのか思い出せない……………

「……………オレ、どーしたんだっけ？」

オレがそう言うと、母さんは抱きしめていた腕をバツと話しながら驚いたように

「あんだ、何も覚えてないの!？」

と言った。

オレは本当に全く覚えていなかったもので、その言葉に頷いた。

母さんは少し困った様な表情を浮かべながら、何があったのかを話してくれた。

「もう1ヶ月以上前なのよね……ヒカルは、5月5日に事故に会ったよ。…あかりちゃんをかばってね。事故に会ったって連絡されな時は、凄く驚いたわ……病院に急いで駆けつけたら、命に別条はないって言われて安心したのに、ヒカルったら全然目を覚まさないし。あかりちゃんったら責任感じちゃって、凄く落ち込んで……あとで大丈夫だって連絡しないとね。」

オレは母さんの話を聞いて愕然とした。

1ヶ月だって!？」

オレはそんなに眠っていたのか!？」

オレは混乱しつつも、棋戦がどうなったのかが気になった。

オレはタイトル保持者だったし、1ヶ月も眠っていたら、碁界に多大な影響を及ぼしたであろうから……

「かつ母さん!棋戦はどーなったの!？」

オレがそう言つと、母さんはキョトンとした表情を浮かべながら

「きせん”って何？」

と言つた。

オレは大いに驚いた。

母さんが棋戦を知らないなんてあり得ないことだから。  
しかし、今はそれよりも碁界が気になる。

「囲碁だよ、囲碁！！オレ、囲碁のプロ棋士じゃん！しかもトップ  
プロ！！碁界がどうなつたかすげー気になるんだけど！」

母さんの顔を伺つと、目が点になっていた。

「……………あんた、頭を打つて、頭がおかしくなつたんじゃない？あんな  
今まで一度も囲碁なんてした事ないのに、プロだなんて……………1  
ヶ月眠っている間に夢でも見てたんじゃない？」

夢……………！！？

夢だつて！？

そんなわけない！！

オレは確かに、囲碁のプロ棋士で、タイトルだつて苦労して手に入  
れたんだ！！

もし、オレが囲碁に関わつてきたことが全て夢だったら、あいつは  
……………佐為はどうなるんだ！？

塔矢は？和谷は？

みんなみんな夢だったなんて言うのかよ！？

そんなの絶対に認めない！！

「……………目覚めたばかりで混乱してるのよね……………。もう寝なさい。寝たら落ち着くと思うから。」

オレはいてもたってもいられず、ベットから飛び出し、病室から走り出した。

「ヒカル！？」

母さんの制止が聞こえたが、オレは無視を決め込んだ。

エレベーターが見えたが、エレベーターが来るのが待ちきれず走り出す。

エレベーターの横にあった階段を駆け下り、病院の出口から飛び出した。

ハアハアと息があがる。

1ヶ月も寝ていたのだから当たり前だ。

本来なら、こんな風に走ることさえ出来ないだろう……………

だが、オレは思いの強さだけで、なんとか体を動かしたのだ。

病院を出ると、ここが何処かはすぐに分かった。

オレが入院していたのは家の近所にあった大病院だったのだ。

オレは再び走り出した。  
走っている最中、周りからの視線が凄く集まる。  
よくよく考えると、オレは入院していたのだからパジャマ姿だ。  
それはそれは、目立つだろう……

それでもオレは走った。  
目的地はそんなに遠くないからだ。

しばらく走ると、やっと目的地へと着いた。

体はもうボロボロだ。

1ヶ月寝ていて、すっかり落ちた筋肉を動かしたのだ。  
明日は酷い目に会うだろう……

オレは重い扉を開いた。

中はやっぱり埃くさい……

そう、オレの目的地はじいちゃん家の蔵。

佐為と出会った場所で、あの碁盤が置いてある場所だ。

オレは梯子を登り、あの碁盤を探す。

5分…… 10分…… 15分と探した。

しかし、あの碁盤は見つからない……

「どーしてだよ!? 何でないんだ!」

オレはショックのあまり、その場に崩れ、倒れてしまった……





1 夢だなんて、認めない(後書き)

すみません！

4ヶ月から1ヶ月に変更しました。

今後のストーリー展開上、1ヶ月じゃないとおかしいと気づいたの  
で……

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6341z/>

---

鏡合わせのオレとオレ

2012年1月1日23時53分発行